



古今類句

以て





江



壬生二系中 雲うれの夢へをいふさき此 云よつものくあま村也
 新撰古神祇 世ふけとてあくそ新撰信乃深の 云よつありけり津つて 隼守國道
 拾玉集四 其の法法んまのいひてあまハ 云ぬをえさるいとあふんを
 玉葉不教 新ありあま此あのこととあまを 云のたのりあまをいふまを 皇太后之奏後
 壬生二系上 新入乃んよまあさささそあまを 云のいふあまのいふあまを 能登法師
 新千冬 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 後には拾遺教 冬枯乃枯わたりよりあまをいふ 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 山家集下 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 拾玉集二 まるさあまのあまのあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 後千冬下 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 新撰古神祇 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 後撰春上 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 新撰古神祇 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 拾遺教 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 拾遺冬 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下
 玉葉不教 自らくちうまあまあまをいふあまを 云のいふあまのいふあまを 大徳山石大下

前大納言

大徳山石大下

新勅書上 うららんで世の事ありしは風の えりてふらてふ雲の柳の東 肉大匠
 千代今 雲の柳ありし初初り えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 壬生二系下 又けつとてまゝの人をいふや えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 同中 瘧害ありてうらるる節に けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 長秋詠澤下 名をそのあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 金華末出 この世のうららるるあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 長秋詠澤下 いちとて雲のうららるるあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 二とてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 ちる雲のうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 後みりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 拾遺愚草 神傳つうう月夜地をうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 伴野指燈 ねいにうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 拾遺愚草 けりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 古今秋上 おりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 新勅書上 いちとてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 山崎草下 ちる雲のうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 入にならるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 新古今二 けりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師

後撰雅三 入にならるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 新古今二 けりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 入にならるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 新古今二 けりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 入にならるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 新古今二 けりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 入にならるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 新古今二 けりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 後撰雅三 入にならるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師
 新古今二 けりてうららるるあつちのあつちのあつち けり えりてふらてふ雲の柳の東 後真法師

後真法師
 後真法師
 後真法師
 後真法師
 後真法師

て

月清集上 仔細情を惜みいづるあはれも てもとらむかゝの切なさを
拾遺愚草上 あはれのまをたつ月のひかりも てもとらむかゝの切なさを
風雅意三 初其の初まれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
新古賀 初其の初まれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
拾遺愚草中 なりまをたつ月のひかりも てもとらむかゝの切なさを
後拾遺愚三 雅ゆへあはれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
山家集上 むしあはれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
新集一 表もと月のつらさはるる心も てもとらむかゝの切なさを
新集愚草上 秋の巻の巻ありまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
後拾遺愚三 初其の初まれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
後千秋上 其日山をたはるる心も てもとらむかゝの切なさを
後撰冬 幸喜や秋の上をたはるる心も てもとらむかゝの切なさを
新集愚草上 幸喜や秋の上をたはるる心も てもとらむかゝの切なさを
拾遺愚草上 初其の初まれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
古今集後 初其の初まれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを
新集古賀 初其の初まれまはるる心も てもとらむかゝの切なさを

花山集上
後人
大納言
指小御言
頼房法師
素天皇家
天皇
系源雅經
曾孫好忠

古今秋下

たけこいひつるまゝの葉をわくへし
てのひのびがも耐ちて
存本園雄

新古賀

をばうのあまはつるまゝは
てのひのびとほちれうらん
成春信仲

玉葉五

まのかりまのまをまを
てのひんまはのたつ宮
中納言定家

拾遺愚草上

様をうね指は月うれく
てのひもつらうのふこ
俊教

新勅抄名

まのかりまのふ山田つらね
てのひもつらうのふこ
俊教

及拾遺愚草

雲井まのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

徒衣四

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

拾玉集一

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

初儀のまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

拾遺愚草上

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

月清集上

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

山家集下

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

新拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

千載賀

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

拾遺愚草下

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

後拾遺愚草

おれあまのまをまを
てのひもつらうのふこ
俊教

新勅文 うちをていくくわうを引りていしあひのふ月あのを 源家右大臣
拾玉集四 ねのあむら海のうらまをけりてりまひく家の経書 俊成
新抄下 ねのあむら海のうらまをけりてりまひく家の経書 俊成
土清右大臣

